

目指す学校像	希望にあふれ みんなに愛される学校
--------	-------------------

重点目標	1 ICTの活用による個別最適な学び、探求的な学びの推進《実社会で新しい価値を生み出す力の育成》 2 安心・安全で活気ある教育活動の推進《6つの行動目標の励行、あいさつ運動の実施》 3 「真の学力」を育むための教育活動の推進《特色を生かした教育活動の推進》 4 ICTを活用した授業改善《教職員研修の充実》
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<現状> ○落ち着いて学習に取り組める児童が多い。令和5年度の全国学力学習状況調査の児童質問紙の項目を見ても「勉強は大切」「授業の内容はよく分かる」の項目がかなり高い結果となっており、学習に対して意欲と目的意識をもって学習に取り組んでいる児童が多い。 ○令和5年度の全国学習・学習状況調査の正答率は、国語・算数ともに市平均を上回っている。 <課題> ○算数においては学習指導要領の領域「図形」及び問題形式「記述」において、市平均を上回っているものの、正答率が6割を下回っており、他の項目に比べて課題がみられた。 ○タブレットの操作スキルに個人差があり、それが学力調査の正答率に影響していた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善</li> <li>・SDGsの実現を目指した谷田小学校「総合的な学習の時間」の創出</li> </ul>	①スクールダッシュボードを活用し、児童のドリルパーク等の活用状況を把握し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組む。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③学力向上カウンセリングを受けることにより、課題が見られた点について、より効果的な手立てを学校全体で共有する。	①スクールダッシュボードを活用し、漢字や計算等の基礎基本の定着に取り組むことができたか。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できたか。 ③調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手だてを学年ごとに設定することができたか。	①スクールダッシュボードを活用した授業の振り返りを実践した。漢字の学習や計算練習には、ドリルパーク等の教育コンテンツ・アプリ等の活用を随時行った。 ②児童が自身の結果を情報端末上のシートに入力し、全国学力・学習状況調査の自己採点を行って、自らの学習状況を把握し、自分なりの学習めあてをもつことができた。 ③学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手だてを設定して学校課題研修に取り組んだ。	A	市学習状況調査も含めタブレットを活用する場面が増えたことに伴い、児童一人ひとりのICTスキルを高める必要がある。今後は低学年のうちから「らっこたん」等のタイピングソフトも含めて取り組んでいくことが大切である。また、次年度以降も引き続き学校課題研修に取り組み、教員一人ひとりの授業スキルを高めていく。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・学校だけでなく、保護者が家庭で子どもたちの学習習慣を身に付けさせることが大切である。 ・学力向上について、学校全体で数値的な目標を追い求めるのではなく、児童一人ひとりの伸長を目指すことが大切である。その点からみると、谷田小の取組は個々の子どもに目を向けていて大変素晴らしいと捉えている。 ・谷田小独自のSDGsに関する取組は、今後も続けていただきたい。 ・地域人材の活用について、様々な場面で活用できるとよい。地域として皆、協力していく気持ちである。
2	<現状> ○児童は全体的に落ち着いており、あいさつがよくできる。家庭での生活習慣が身に付いている児童が多い。 ○昨年度、学校内でのけがの報告は749件、そのうち医療機関を受診したけがは54件であった。 <課題> ○学校でのルールを守ることやあいさつなど、教員からの指導を守らせるだけでなく、なぜそういう行動をとるのが大切なのかを子ども自身が考え、気持ちよく過ごしたり、危険を回避して安全に生活したりするための力を育てることが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その日のこは、その日のうちに」の共通理解と徹底</li> <li>・安心・安全で活気ある教育活動の推進</li> </ul>	①生活目標の後に一人一台端末を活用したアンケートの実施や心と生活のアンケート、なかよしアンケートの定期的な実施と結果の分析を行い、特に対象となる児童には、速やかに面談を行う。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用し、教職員全体で児童の状況を把握、分析し、適切なタイミングで、組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が80パーセント以上となったか。 ②アンケートの結果を受けて児童との面談を実施し、児童一人の状況を継続的に把握できる記録を蓄積する。	①学校評価教員アンケートにおいて、生徒指導と教育相談の関連する12項目の肯定的な回答の割合が84.3%となり、前年に比べて2ポイント以上の上昇であった。 ②なかよしアンケートの結果を受けての面談の実施と、その後の支援指導の組織的対応を実施した。学校評価児童アンケートでは、「先生は、心配なことや困った時に話を聞いてくれますか」で肯定的回答が93.8%であった。	A	多くの事例において「その日のこは、その日のうちに」の共通理解のもと、学年主任や生徒指導主任を核とした組織的対応が行えた。 今後は、個別の事案におけるケース会議の充実や、関係機関との連携を進めることで、さらなる教育相談、生徒指導の充実を進めていく。	・最近、地域での犯罪や不審者についての情報が多いので心配である。児童にとって学校は安全なところであるという状況をぜひ確保してほしい。 ・児童の自転車の乗り方や、放課後の過ごし方について課題が見られる。学校だけでなく、地域や保護者ももっと声を掛けていけるとよいと思う。 ・先生方も児童もよくあいさつをしていると捉えている。防犯の観点からも来校者には積極的に挨拶をしてほしい。
3	<現状> ○学校運営協議会で、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 <課題> ○学校運営委員会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域などに広め、地域の人々と共有できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校庭の芝生を活用した特色ある教育活動の充実</li> <li>・学校運営の改善と児童生徒の健全育成に向けた谷田小学校コミュニティ・スクールの実施</li> </ul>	①芝生を活用した行事や地域を巻き込んだ行事を実施し、児童が学校・地域を大切に作る気持ちを育成する。 ②様々な行事等でも芝生を活用し、ホームページや学年便り等で、家庭にも周知する。	①芝生活用委員会を中心に、芝生の活用について検討し、継続的に実施していきけるよう一覧表を作成する。 ②ホームページや学年便りで、芝生を活用した行事の情報を発信し、家庭、地域と共有する。	①芝生を活用した運動会は盛大に実施された。天候観望会については残念ながら天候によって中止となったが、多数の応募があった。 ②ホームページや学年便りで、芝生を活用した行事の情報を家庭、地域に発信し、共有することができた。	A	地域ボランティアの皆様のおかげで維持管理できている芝生については、学校としてもこれからも予算や設備について強く市に要望をしていく。芝生を活用した教育活動は今後も維持、充実させていく。	・谷田小学校の芝生のグラウンドは地域の誇りである。これからもぜひ維持してほしい。維持・管理は学校と芝生ボランティアの努力だけでは限界がある。市にはぜひしっかりと芝生維持のための予算や設備、人員の手立てを講じてほしいと強く要望したい。
4	<現状> ○学校課題研修で、効果的なICTの活用方法について、専門部単位での授業準備・指導案検討を行うなど、研究組織の機能を充実させてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、より深い教材研究を行い、授業を行っている。 <課題> ○ICTの活用について、教科や担当教員によって取組の差が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題研修を中心とした学びの自律化・個別最適化実現のためのアクション</li> </ul>	①ブロック、研究部、そして教科を横断しての組織的な研修を実施し、全学年で、研究授業と公開授業を実施する。 ②教科を横断しての取組やスクールダッシュボード等のICT活用したデータの利活用についての成果検証を行い、専門部の活動をさらに充実させ、研修を深めていく。	①これまで取り組んできたものに、さらに修正や付け足しをしながら、誰もが活用できる谷田小学校ICT実践事例集を作成する。 ②昨年度の実践を基に、日々の授業において実践を行い、成果を検証していく。また、教育データの活用について取り組んでいく。	①研究主任を中心に校内研修に取り組んだ。先行事例を実践している教員が講師となり研修することで実践実績を積み重ねた。 ②教育データの活用について、今年度の取組をまとめた。スクールダッシュボードの活用を行った。	B	データの利活用について、今年度の反省を踏まえて、次年度からはより手だてを明確にしていくことを研修で確認した。次年度は、各教員が一定の理解と手立てに従って研修を進めていく。	・谷田小学校の教職員は、資質の向上、授業力の向上に向けてよく取り組んでいると評価している。 ・タブレットの活用を進めることが大切であることはわかるが、児童の目の健康が心配である。目の体操等を取り入れてほしい。